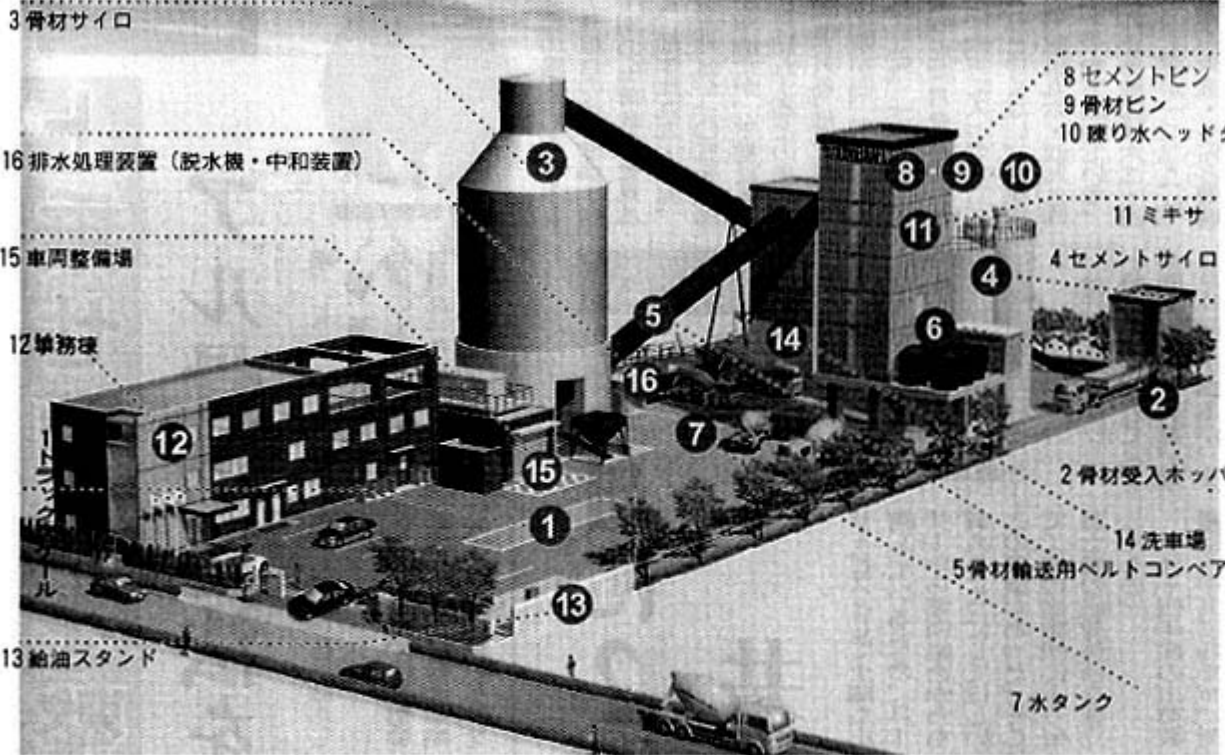


最新鋭設備でニーズに応える

河島コンクリート工業 新河岸工場



3 骨材サイロ
8 セメントビン
9 骨材ビン
10 残り水ヘッドタンク
11 ミキサ
12 事務所
13 給油スタンド
14 洗車場
15 車両整備場
16 排水処理装置 (脱水機・中和装置)



河島社長

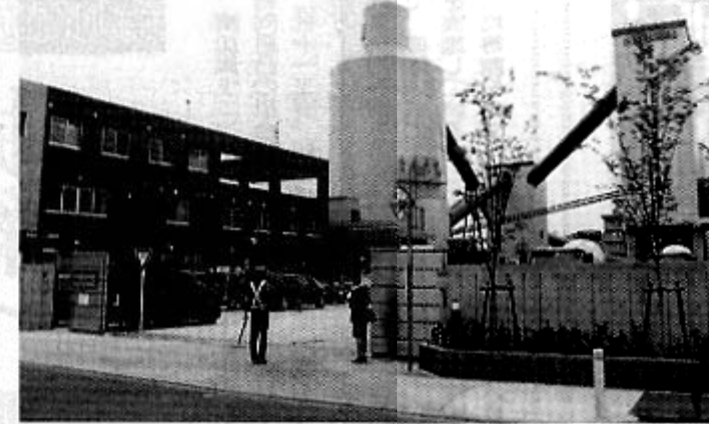
全て小型車で対応

東京の運搬事情に合致

河島コンクリート工業 河島社長
河島社長は、昭和二十六年の創業。コンクリート二次製業でスタートし、昭和四十五年から生コン製造に転換した。
「創業者がコンクリート業務取扱。早くから会社を任されていたつもり。用地取得が難しい、」
「従業員にも経営参加を全うしたい。」
「生コンは大車種で、」

都内生コン初の条例認可

「だが、父が亡くなった。父の傘の下に守られていたことを自覚した」と謙虚に語る。父の庇護を乗り越えるには二代目以上の実績を示すしかない。
「品質管理体制の確立と出荷量の維持を図るにはどうすればよいか真剣に考えた」
平成九年にプラントの大幅な改造を行う。環境には十分に配慮して操業していたので、環境問題の発生はなかった。昭和五十七年にコンクリート技術士資格を取得。同年河島コンクリート工業に入社した。設備・人材ともに「秩父生コン」のような立派な工場断した。そこで移転候補



工場と新社屋

認可工場

認可年月日 平成14年8月29日
認可者 板橋区長

工場の名称	河島コンクリート工業新河岸工場	見守条件及び公害防止措置
工場設置者の氏名	河島 賢一	
業種	レディーミクスコンクリート製造	
公害防止担当部署	設備部 工場長 河島 賢一 電話番号 03-5921-0008	

生コン工場では都内初の認可



車両位置、状況が一目瞭然

「運ぶ方が効率的に良い」と思われているが、東京の場合には運搬事情に合った車両を選ばなければならない。大は小を兼ねるといわれるが、生コンは小が大を兼ねる。例えは損益分岐点を明かに、他社なら社員に言わないような情報も全部従業員に伝えるようにしている」
「生コンは大型車種で、」
「小型車で行けない現場は、」
「手渡しにすることで会話による意思疎通を大切に、」
「色で健康状態も分かるし、何と云っても一日五十現場もあり、細かい情報を伝えるには顔を合わせる必要がある。現場によっては運搬手にマップを渡しており、またGPSの配車管理システムで効率の配車と確保。正確な納入を心掛けている。」
「社員三十八名のうち有資格者数はコンクリート技士十一名、主任技士一名、コンクリート診断士一名、合格したら金一封が出る」のは他社と大差はないが、全社員が一度は試験室とミキサ車に乗る経験は必須にしている。会社では週に二回、診断士の有資格者を中心と若々しく、後輩に負けないとベテランも頑張る。勉強するからだろう。創業者が定めた同社の社章は、河島の力ではなくチカラ。右肩の直角が曲がり直ぐ、力強い根性を表している。性根を握って真正面から仕事に取り組みたいという意気込み。ちなみに色は情熱を示す深紅色である。その姿勢は今も継承されている。同社の平成十五年度指針を見てみよう。基本方針は「新工場を開けにふさわしい製品を創造するために、常に創意工夫を旨とし、高品質高性能を追求させる。また多様なニーズに応え、顧客へのサービスを徹底する」としている。具体的方針は次の三点である。

河島コンクリート工業 河島社長
「より一層の高品質を追求した設備が四千平米の敷地に配置されている。まず目を引くのはプラントの全量。そして安全管理上、所要箇所は赤色や黄色で直感的に判断できるように塗り分けされている。また細かい配慮がなされている。」
次に特に注目される設備は前述したミキサ(北川鉄工所及びGPS配車システム)が挙げられる。
「北川鉄工所の3000リットルインバーター付強制二軸ミキサWA。同ミキサは独自の軸上ヘリカルギア減速機構により公称容量でのスラップ5cm混練が可能。駆動部をコンパクトに仕上げているためフロアスペースが広く使用でき、導入する以前も独自の配

「混練アームとブレードの形状配置を連続化した。硬軟ともに練りが安定している。また独自の「数字」により混練時間を大幅に短縮でき、排出も素早く約五秒。抜群の耐久性を誇る特殊耐腐蝕鉄を使用している。エアー噴出とパッキンの二重シールにより、モルタルの進入を防ぐ。OGPS配車システム「スカイワンII」(パシフィックテクノス)はGPSを利用して生コン輸送車の配車効率を飛躍的に高めるシステム。また出荷管理システムと連動させることにより、きめ細かい現場情報管理が可能になった。
同社では同システムを導入する以前も独自の配

「出荷管理の強化により、円滑な納入を徹底し、納入クレームの撲滅を図る」
「高強度、高流動等の各種試験研究の実施」
「技術力向上と資格取得を目指す」とも、7S活動を継続し、行動規範として実施する」
なお、同工場は昨年八月に「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」に基づき工場設置認可を得ている。同条例は「一昨年に施行され、生コン工場としての認可は都内で初めて。同条例は工業地域に立地し、工場が接している道路の幅が一定以上あること、騒音や粉塵の抑制といった各種の厳しい内容を規定しており、認可を得ることは難しいとされ、同条例の認可取得は同工場の誇りとなっている。」

高品質を追求した設備

隣接地への配慮も

「混練アームとブレードの形状配置を連続化した。硬軟ともに練りが安定している。また独自の「数字」により混練時間を大幅に短縮でき、排出も素早く約五秒。抜群の耐久性を誇る特殊耐腐蝕鉄を使用している。エアー噴出とパッキンの二重シールにより、モルタルの進入を防ぐ。OGPS配車システム「スカイワンII」(パシフィックテクノス)はGPSを利用して生コン輸送車の配車効率を飛躍的に高めるシステム。また出荷管理システムと連動させることにより、きめ細かい現場情報管理が可能になった。
同社では同システムを導入する以前も独自の配